

防災マップの作成

～宇和島市の防災意識の向上に向けて～

2年1組 戎 優利 2年2組 永樂莉紗子
2年2組 岡崎美都姫 2年2組 宮本 彩葉
指導者 都築 果林

1 課題設定の理由

近年、日本各地で比較的大きな地震が多発している。そのような中で、今後30年以内に60～90%の確率で起こるとされている南海トラフ巨大地震に備えるために私たち高校生にできることは何か考えた。6校合同避難訓練や防災についての講演会に参加し、防災意識が高まっている東高生でも居住地区のハザードマップを見たことがないという生徒が2割程いることが分かった。そこで、宇和島市のホームページに掲載されているハザードマップを詳しく見てみると子供や小さい字が見えづらい方、外国人の方には分かりやすく見やすいものであるといえないように感じた。そのため、広範囲にするのではなく特定の地域に限定したり、子供を意識したりすることで多くの人が一目見て分かる防災マップを作成することができるのではないかと考えた。

被災地岩手県の調査を図2、3で示す。図2より、大きな地震を経験した被災地でも、防災意識が徐々に薄れていることがわかる。また図3からはハザードマップなどの災害リスクに関する情報の利便性向上が必要だと考える人が最も多いことが分かる。

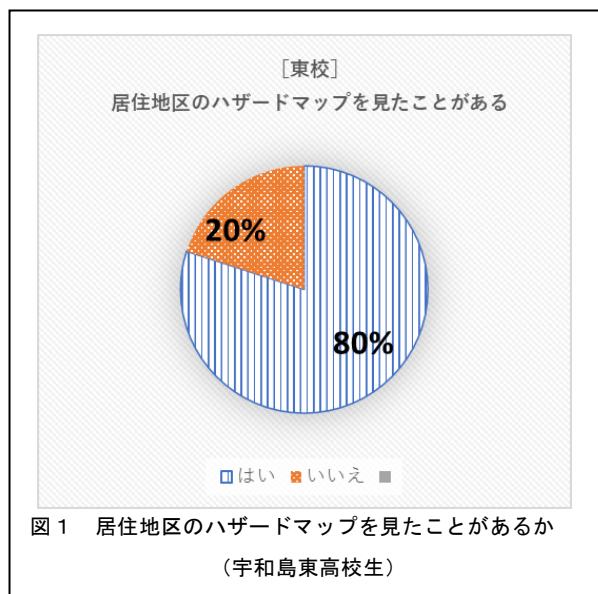


図1 居住地区のハザードマップを見たことがあるか
(宇和島東高生)

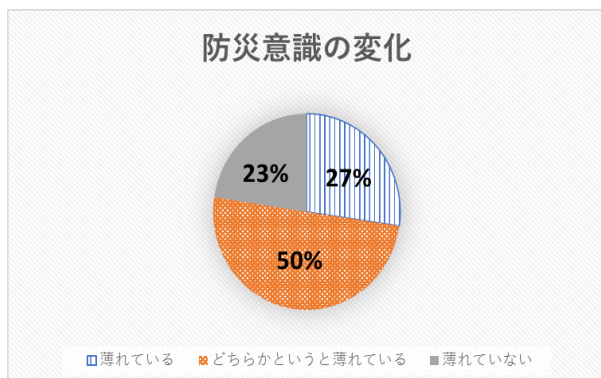


図2 防災意識の変化 (岩手県)

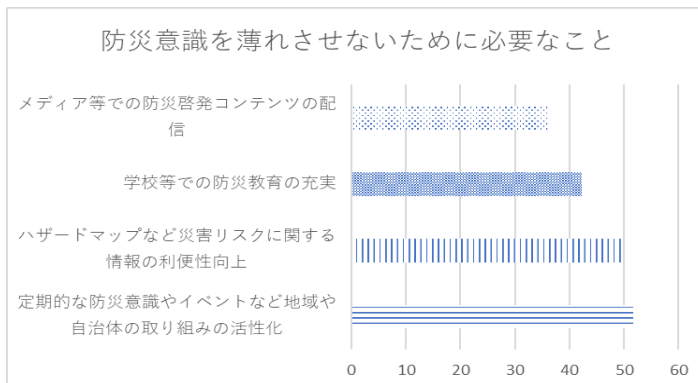


図3 防災意識を薄れさせないために必要なこと (岩手県)

2 仮説

- (1) 子供や高齢者、ハンディキャップを抱えている方などがハザードマップを見ても十分には理解できていないのではないかと。
- (2) 自分の居住地区のハザードマップの確認がすぐできる状況にあることで、市民全体の防災

意識を上げることができるのではないか。

3 研究の手順

- (1) オリジナル防災マップを作成する対象を「駅周辺」に設定する。
※駅周辺に設定した理由としては、外国人や観光客など多様な人が集まりやすいと感じたから。
- (2) 大浦2区自主防災会の方々にインタビューをする。
※大浦2区自主防災会とは先行研究として私たちが参考にさせていただいている市内で初めてオリジナル防災マップを作成された自治体の方々のことである。
- (3) 防災マップ作成に必要な資料・情報集め
- (4) 一時避難所までのルート設定
津波が発生し到達するまでの時間を考慮し、第一に身の安全を確保することができる一時的な避難場所を知っておく必要があると思ったから。

4 結果と考察

- (1) 大浦2区自主防災会の方から学んだこと
 - ア 宇和島市のハザードマップと同様に一時避難場所や海拔の高さの記載
 - イ それぞれの地区の班やいくつかの避難経路が色分けされ分かりやすく明示
 - ウ 家庭用ハザードマップの各家庭配布
 - エ 保育園の記載や子供が興味を持つデザインや親しみやすいマークの使用
- (2) 今年度行った活動
 - ・防災地理部オンライン活動
 - ・宇和島市事前復興地区別ワークショップ（市役所）
 - ・大浦2区自主防災会へのインタビュー（本校来校）
 - ・第7回復興デザイン会議全国大会
 - ・市内小学生対象の科学教室「宇東科学の祭典」で防災教室を開催

5 まとめと今後の展望

昨今、注視されている南海トラフに備えるために私たち高校生にできないか考え、私たちには人的・物的被害を最小限抑えることができないが、高校生の私たちがオリジナルの防災マップを作成することで興味を持ってもらえたり、防災意識の向上を少しでも促すことができるのではないかと思った。また自主防災会の方のお話を聞いているうちに、私たちは「何をのせるか」ばかりに注目していたことに気付き、本当に大切なのは「どうやってつくるか」、直接的、間接的に関わる人をイメージすることだと分かった。

今後の展望としては、より分かりやすい防災マップ作成のための資料集め、完成した防災マップを多くの人の目に触れる場所に設置して防災に関心を持つ人を増やしていく、そして市全体の防災意識を高めていくことである。必ず訪れる「そのとき」の判断に役立つマップを日常の暮らしの中に溶け込ませていきたい。

6 謝辞

本研究を進めるにあたり貴重なお話を聞かせていただいた大浦2区自主防災会の皆様、ポスター作成において助言をいただいた東京大学の皆様に深く感謝申し上げます。

7 参考文献

- ・OYO（応用地質株式会社）（2023）防災意識「薄れている」が約8割 ～東日本大震災から12年、被災地での防災意識調査～
- ・大浦二区自主防災会 防災マップ